

蓬左  
HÔSA



卷1 序文

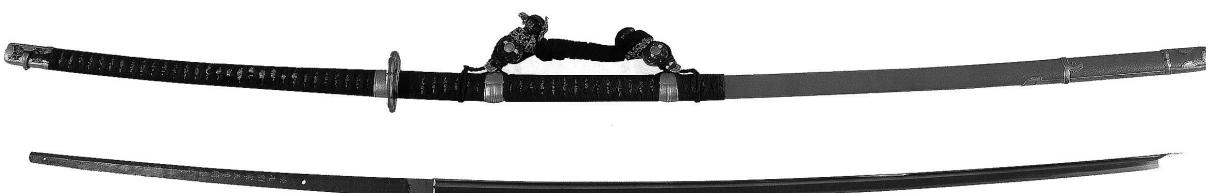
# 尾張の武道

江戸時代の武士社会の中では、弓術、馬術、剣術などの武芸が発展した。名古屋城下でも武芸者を多数輩出し、また武芸を教授する武士や師範も、多数生まれ、門弟の数を競つた。『張藩武術師系録』によると、江戸時代後期には弓術四流、馬術四流、槍術十流、剣術十二流などのがかぞえられ、砲術に至つては、短筒、大砲、棒火矢などふくめて三十五流が盛んであった。平和な時代にあっても、技術や秘伝を継承すると共に「印可状」「免許状」などの証書が発行されて、武士の必須教養として、武芸は継承・発展をみた。

とりわけ尾張柳生家は、将軍家指南となる柳生本家の但馬守宗厳石舟斎の孫の利厳が独立して、尾張徳川家に仕え、以後明治まで続いた。三男連也斎が包は将軍家光の御前試合で「天下第二」の称を受け、最強の剣術家として歴史小説の主役でも知られる。造園、陶芸、「柳生鍔」とよばれた鍔を考案し、茶の湯などの才能にも恵まれた。



文化8年(1811)尾張藩内の武芸の種類、名称や師範の武士の氏名が系統図の形式で書き上げられている。他国にある武芸流派は除いたと凡例に明記されており、名古屋城下には多数の武芸が花開いていた。



大太刀 銘 永則 一口 室町時代 附 糸巻大太刀拵 (長さ 227.5cm) (徳川美術館蔵)

利厳愛用の太刀は、尾張柳生家から兵法目録を藩主に献上するたびに添えて差し出し、藩主の代替わりのたびに柳生家に返還されたと伝えられる。大太刀の中心表には偈文と、裏面に「大和国添上郡神戸庄柳生伊予守平利厳所持之」の金象嵌所持銘がある。

紫式部によつて著された『源氏物語』は、今からおよそ千年前の平安時代に成立しました。紫式部が『源氏物語』を書き始めたのは、式部の夫藤原宣孝が長保三年(1002)に歿して間もない頃から、寛弘二年(1005)あるいは翌三年の十二月二十九日に中宮彰子のもとに出仕するまでの寡居の時期と考えられています。

さらに寛弘五年(1008)十月一日に、藤原公任が「此のわたりに、若紫やさぶらふ、うかいたまふ。源氏に似るべき人も見え給はぬに」と呼びかけた話いや、寛弘七年頃の出来事として、「この人は、日本紀をこそ読みたるべけれ」と評されたことなどが『紫式部日記』に見え、この頃には『源氏物語』が人間のドラマや歴史を呈するほどに書き進められていましたと考えられています。この『紫式部日記』の記事に基づき、今年が『源氏千年紀』として全国的に盛り上がりつつあります。

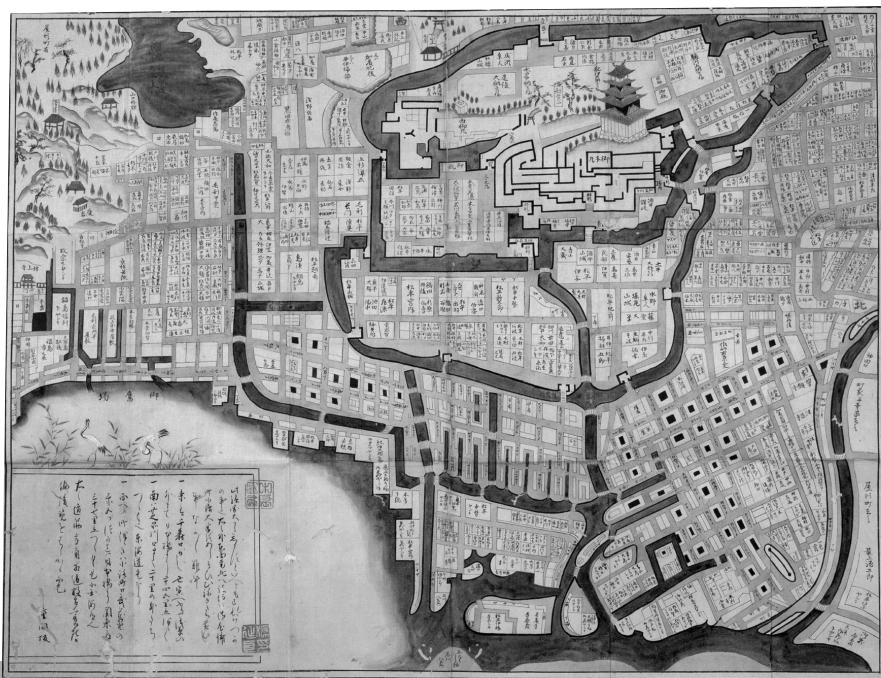
『源氏物語』は、その成立以降現在にいたるまで、わが国を代表する古典として読み継がれ語り継がれ、数多くの写本をはじめ、梗概書や注釈書なども多く記されてきました。各時代にわたり絵画化が試みられ、調度品や衣服などにも『源氏物語』にちなむ意匠が凝らされました。

この名古屋の地には、国宝『源氏物語絵巻』や重要文化財「河内本源氏物語」、国宝「初音の調度」をはじめとして、全国的に見ても『源氏物語』にゆかりのある古書籍や絵画、工芸品などの作品が数多く伝えられています。源氏千年紀にあたる本年、蓬左文庫展示室1のなかで、『源氏物語』にちなむさまざまな作品を取り上げ、その享受の一端を紹介します。

## 源氏物語千年紀 「源氏物語」の世界

## 諸国城下図探訪

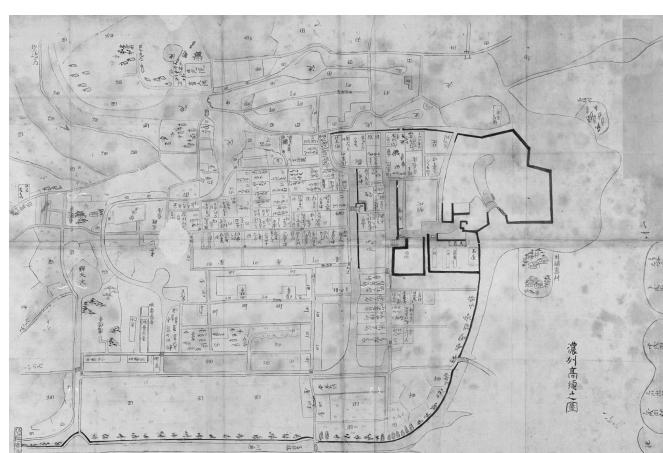
関東御入国絵図  
(寛永江戸図)



明暦の大火(1657年)  
以前の江戸を描いた図。  
原図は寛永9年(1632)  
ころに刊行されたと考  
えられている。

こうして各城下には、屋敷が建ち並ぶ武家町  
が広い範囲を占め、多くの武士とその家族たち  
が暮らしていました。その生活に必要な物資な  
どを供給するために、城下には職人や商人たち  
が居住する町人町(町家)も一定部分を占めま  
した。さらに、藩内外から物資が集まるよう  
にするために、流通機構や交通路が整備さ  
れたので、城下町は、藩内の経済の中心となっ  
ていった例も多いのです。

さらに、藩主や藩士にゆかりの寺院や神社  
をはじめ、藩内に古くからある寺院・神社も  
城下へ移転させ、寺町を構成しました。宗教  
や文化の面でも藩内の拠点としての役割を  
果しました。



濃州高須図

尾張徳川家の分家、高須松平家(石高3万石)の居城高  
須城の城下図(岐阜県海津市)。

江戸幕府のもとに、全国で「三百諸侯」とよば  
れる多くの藩が成立しました。元和の一国一城  
令により、各藩は藩主(大名)の居城一つに制限  
され、藩主に仕える藩士(家臣)たちは、原則と  
して領地である農村を離れ、全員が城下に居住  
することとなりました。

こうして各城下には、屋敷が建ち並ぶ武家町  
が広い範囲を占め、多くの武士とその家族たち  
が暮らしていました。その生活に必要な物資な  
どを供給するために、城下には職人や商人たち  
が居住する町人町(町家)も一定部分を占めま  
した。さらに、藩内外から物資が集まるよう  
にするために、流通機構や交通路が整備さ  
れたので、城下町は、藩内の経済の中心となっ  
ていった例も多いのです。

また、大名の重臣の居城の城下や、かつて城下  
町であった都市の絵図も合わせて紹介します。  
最初に取り上げる江戸は、徳川将軍家の居城  
として人口百万を越える世界最大の都市でし  
た。幕府の西の拠点大坂城のある大坂は、国内  
経済の中心として繁栄しました。

\* \* \*

江戸時代に多くの城下図が描かれました。

会期：平成20年4月9日(水)～5月18日(日)

展示室1・2 徳川美術館本館（徳川美術館本館では4月12日（土）より開催）

## 春季特別展

# 桃山・江戸絵画の美

徳川美術館には、桃山時代から江戸時代までのいわゆる近世絵画の作品が数多く収蔵されています。

「本多平八郎姿絵屏風」「遊楽図屏風（相応寺屏風）」「歌舞伎図巻」（いずれも重要文化財）の近世初期風俗画の名品をはじめ、狩野派・土佐派の伝統的な画派、写実的な絵画で一世を風靡した熊斐や円山応挙、さらに尾張で活躍した御用絵師や復古大和絵派など、さまざまな画家たちによるバラエティー豊かな作品は、枚挙にいとまありません。

当館の近世絵画の大半は、尾張徳川家に伝来した品々であり、御殿を飾る屏風や掛軸、婚礼の調度本、藩主やその周辺の人々に賞讃された絵巻や画帖など、大名の生活の中で欠くことのできない「道具」として製作され用いられてきました。遺された記録により、どのような経緯で製作し、尾張徳川家に伝來したかが分かる作品も少なくありません。江戸時代、将軍家に次ぐ家格を誇った尾張徳川家が、絵画製作にどのような役割を果たしたか、画家と発注者をめぐる関係など、絵画が生み出される背景を探る上でも興味深い作品ばかりです。



重要美術品 華洛四季遊戯図巻 部分 円山応挙筆 江戸時代（徳川美術館蔵）

円山応挙（1733～95）が、京都の庶民生活にじみの深い四季の情景を描いた図巻。京都の公家・九条家より尾張徳川家に贈られた。



花鳥図屏風 左隻 熊斐筆 江戸時代（徳川美術館蔵）

熊斐（1693～1772）は、長崎で活躍した南蘋派の画家。尾張家八代宗勝の注文によって描かれた。

寄贈・購入品を加え、館蔵の桃山・江戸絵画の優品を

これまでにない規模で展示します。江戸時代の人々

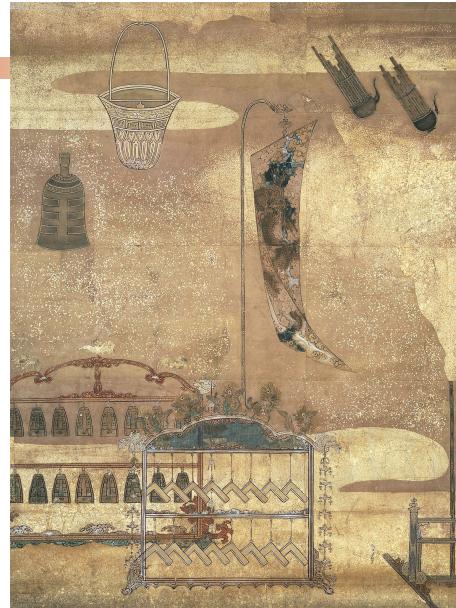
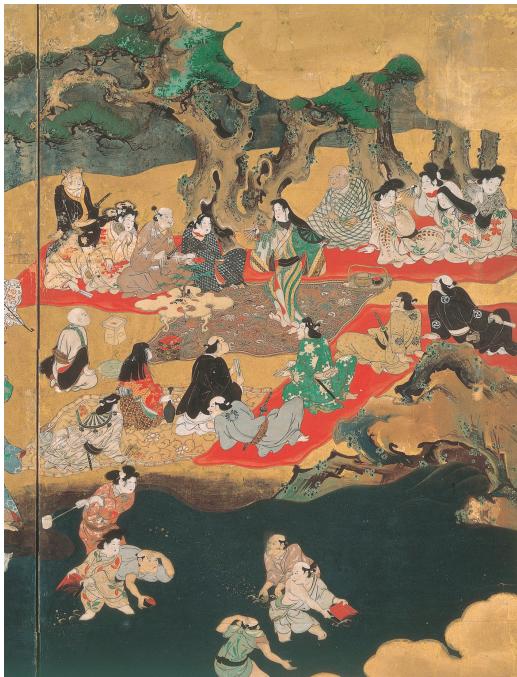
を魅了した、その華麗で典雅なる世界をご堪能いた

だきたいと思います。

(初公開)

がつき ずついたて  
楽器団衝立 江戸時代 (徳川美術館蔵)

明治維新後まもなく取り壊された名古屋城  
二之丸御殿のうち、楽器之間に置かれて  
いたとみられる衝立(現状は未表装)。



重要文化財

ゆうらくす びょうぶ そうおうじ びょうぶ  
遊樂図屏風(相応寺屏風) 部分 江戸時代 (徳川美術館蔵)

太平の世を満喫するかのように、さまざまな遊びを愉しむ人々  
を描いた屏風。名古屋・相応寺伝来により「相応寺屏風」の  
名で知られる。

## 平成20年度展示スケジュール

4月9日～5月18日

春季特別展

桃山・江戸絵画の美

5月21日～7月21日

尾張の武道

諸国城下図探訪

7月24日～9月28日

妖怪絵本——もののけ・お化けの世界——

軍記物——戦争とものがたり——

以上の五つの展覧会については、本紙2～7  
頁をご参照ください。

21年2月18日～4月5日

桜・さくら

「尾張名所図会」にみえる江戸時代の尾  
張の名所旧跡とその現状を紹介します。

遊びながら学ぶ  
——江戸から明治の教育アイテム——

双六など楽しく遊びながら、必要知識を  
学習できる作品を紹介します。

10月1日～11月9日

秋季特別展  
室町将軍家の至宝を探る

足利義満没後600年を記念して、足利  
將軍家にゆかりの名品を新しい視角で紹  
介します。

11月12日～12月14日

大陸文化の香り——清朝の美術工芸——

中国清朝からもたらされた美術工芸品  
と地図を紹介します。

尾張の殿様——二代徳川光友の蔵書

文武に優れた才能を有した尾張徳川家  
二代光友の蔵書を紹介し尾張藩の文化の一  
端を明らかにします。



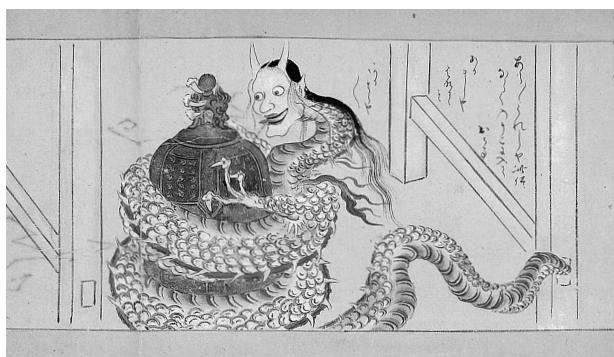
狂歌弄花集

# 妖怪絵本 —ものだけ・お化けの世界—



きんせいかいだんしもよのぼし  
近世怪談霜夜星  
柳亭種彦作・葛飾北斎画 江戸時代

「四谷怪談」をもとにした物語。  
挿図を北斎が描いている。



ひだかがわぞうしきまき  
日高川草子絵巻(模本) 江戸時代  
(徳川美術館蔵)

原本は室町時代の絵巻。思いを寄せた男性への執念から蛇身となった娘。

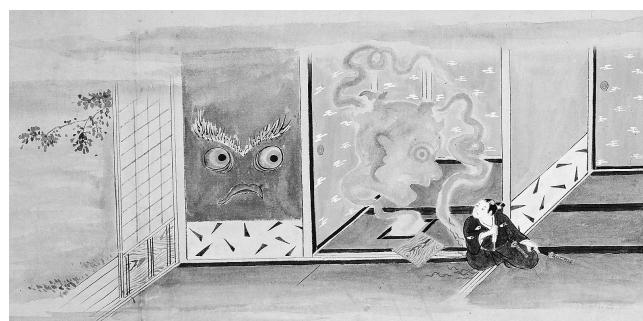
変形したお化けなど、さまざまな姿の妖怪を描き出す想像力には驚かされます。同時に、妖怪のバリエーションの多様さは、いつの時代も人知の及ばない「異界」が身近な存在として意識されていたことを思われます。

夏休み期間に開催される本展覧会では、徳川美術館と蓬左文庫の所蔵品の中から、妖怪・お化けが登場する絵巻・絵本を集めて紹介します。見るも恐ろしい怪物から、どこかユーモラスなお化けまで、「妖怪絵本」の不思議な世界を覗いてみませんか。



ぶだゆうものがたりえまき  
武太夫物語絵巻 江戸時代 (徳川美術館蔵)

備後三次に住む稻生武太夫(平太郎)のもとに魔王が現れ、一ヶ月にわたり様々な妖怪が出没するが、武太夫は耐え通したという物語。「稻生物怪録」とも呼ばれる。



# 軍記物 —歴史とものがたり—

世に知られた『平家物語』あるいは『太平記』などといつたいわゆる軍記物は、『東鏡』などの歴史書が時代の出来事を記録することを一応はを目指したものであるのと違い、動乱の時代の歴史事実を縦糸に、そして物語的なフィクションを横糸にして織り上げられた「ものがたり」という織物であると言えます。したがって軍記物の内容は、その全てが歴史事実そのものというわけではありません。

しかし軍記物という「ものがたり」の存在によつて、味気なく断片的な歴史事実、中でも合戦という実際には目を背けたくなるような血生臭い殺し合いでさえも、ドラマチックに語り継がれることで忘れ去られることなく、数百年を経た現代の私たちの心の中にまで伝わっています。つまり軍記物は、歴史書よりもはるかに力強く「歴史」を伝え続けてくれたわけです。

もつともその歴史書も実際は、膨大な歴史事実の中から特定の人間・組織によって取捨選択され、編集されることで作られた「作品」である以上、事実としての歴史そのものではありません。軍記物と歴史書との間に明確な境界はありません。この意味において、「歴史」とはまさに「ものがたり」であり続けてきました。例えば、『保元物語』・『平治物語』とい

う軍記物の内容は、徳川家康にとつては確かに平安時代末期の保元・平治の乱といつて動乱の「歴史」そのものでした。

これらのこととは私たちに、歴史事実が後世に自動的に「歴史」となるのではなく、語り継がれるものこそが「歴史」として生き残ることを教えてくれます。

源頼政の挙兵に端を発した治承・寿永の乱(1180~1185)、鎌倉幕府の成立、後鳥羽上皇による鎌倉倒幕戦争である承久の乱(1221)を含む、平安時代末~鎌倉時代中期の社会の動きを編年体で記述した歴史書。



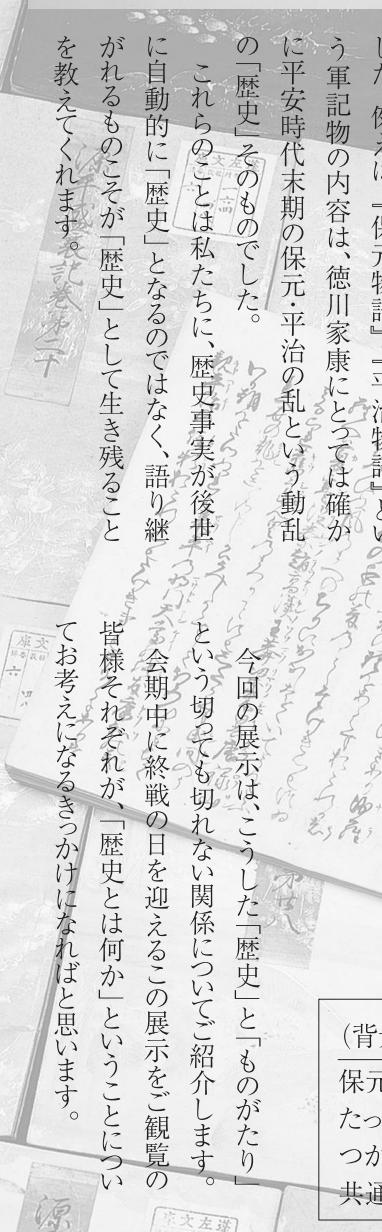
東鏡 江戸時代前期写

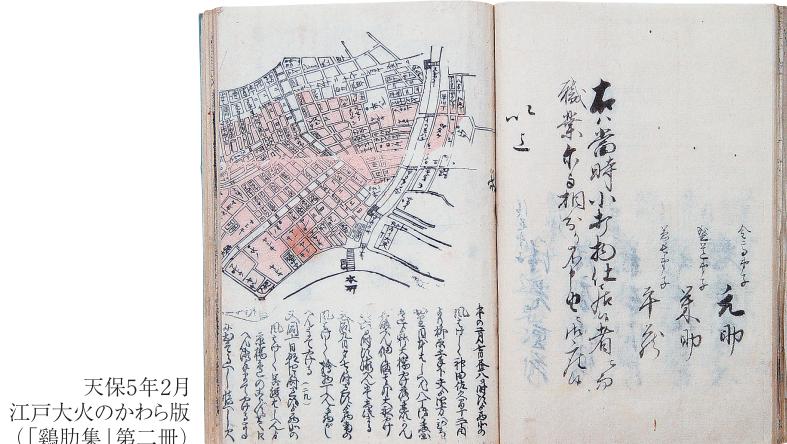
(背景)源平盛衰記 慶長年間写  
保元・平治の乱以降二十年にもわたった源平両氏の抗争と興亡をあつかった長編物語。『平家物語』と共通する部分が多い。

今回の展示は、こうした「歴史」と「ものがたり」という切っても切れない関係についてご紹介します。皆様それぞれが、「歴史とは何か」ということについてお考えになるきっかけになればと思います。

## 保元物語・平治物語 慶長年間写 駿河御譲本

平安時代末期、武士が中央政界に台頭するきっかけとなった保元・平治の乱(1156・1159)をあつかった物語。片仮名の本資料とは別に平仮名の物も伝来する。いずれも徳川家康の旧蔵品。





天保5年2月  
江戸大火のかわら版  
(「鶏肋集」第二冊)

著者安井弥兵衛重遠の父、尾張藩士安井弥兵衛重昌（一八三六年没）は徒士出身であったが、文化二年（一八〇五）に右筆に転じ、江戸詰（定詰）となつて、右筆組頭まで進んでいる。子の重遠も父と同じく右筆を勤め、嘉永元年（一八四八）には、尾張藩の記録編纂を担当する「御日記所」の留書頭並となつた。

表紙の「鶏肋集」は、安井重遠（一八六二年没）による隨筆。

翌二年（一八四九）に安井重遠は、年来集めてきた書状、街の噂、役所向きの風聞、神社仏閣の縁起・絵図などをまとめ綴じて、「鶏肋集」と題した（第一冊序文、表紙写真参照）。鶏肋とは鶏の肋骨（あばら骨）のことで、大事にするほどのものではないが、骨に少々の肉が付いているので捨てるのは惜しいものとの意味である。重遠は序文のなかで、集めたものの中には公表をはばかるものも多いので門外不出とし、子孫への教訓のために残すと述べている。以後、重遠が亡くなる文久二年（一八六二）まで編集が続けられ、「鶏肋集」二十三冊（目録番号一〇一三）が残されている。重遠が日記所に勤務し始めたことが、「鶏肋集」の編集の契機になつた可能性が考えられる。

安井重遠が、「鶏肋集」に収録した内容は、寛政二年（一七九〇）から、重遠が亡くなる文久二年（一八六二）までに及んでいる。重遠自身が書き留めた記事のほかに、印刷されたもの、たとえば寺社の縁起・絵図やかわら版などが数多く綴じられていて注目されている。

## 蓬左文庫

名古屋市蓬左文庫 〒461-0023 名古屋市東区徳川町1001番地 TEL(052)935-2173 FAX(052)935-2174  
ホームページ <http://housa.city.nagoya.jp/> 〈蔵書検索もできます。〉

### 交通案内

#### ■公共交通機関をご利用の場合

##### ●名古屋駅より

【市バス】名古屋駅バスターミナル（テルミナ2F）グリーンホーム7番のりば基幹2号系統、「徳川園新出来」下車徒歩3分

【名鉄バス】名鉄バスセンター（メルサ3F）4番のりば基幹バス「引山」方面行「徳川園新出来」下車徒歩3分

【JR】JR中央本線、「大曾根」下車南出口より徒歩10分

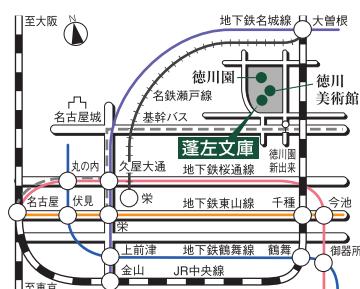
【地下鉄】東山線「藤が丘」方面行、「栄」で名城線「右回り」に乗り換える「大曾根」下車3番出口より徒歩15分 桜通線「野並」方面行、「車道」下車①番出口より徒歩15分

##### ●栄より

【市バス】栄バスタークニナル（オアシス21）3番のりば基幹2号系統、「徳川園新出来」下車徒歩3分

#### ■お車をご利用の場合

蓬左文庫専用駐車場はありません。徳川園駐車場（有料 30分 120円）をご利用下さい。



### ご利用案内

#### ■休館日／月曜日（祝日のときは直後の平日） 5月7日（水）は展示室のみ臨時開館、8月11日（月）は臨時開館します。

12月中旬～1月3日 ※催事により変更することがあります。

■展示室／有料 一般:1200円 高大生:700円 小中生:500円（蓬左文庫・徳川美術館 共通観覧）

【開室時間】午前10時～午後5時（入室は午後4時30分まで）

■閲覧室／無料・館外貸し出しはいたしません。

【閉架図書】午前9時30分～午前12時 12時45分～午後5時 【開架図書】午前9時30分～午後5時

【複写サービス】保存など支障のない範囲で、CD-Rからのプリントアウトまたはマイクロフィルム複写などの方法により行います。電話・郵便による申込みも可。